

情報セキュリティ白書 10大脅威

2015年

個人情報漏えい状況2014年度 (経済産業省2014年12月)

- 業種：金融業と電気業で60%以上の報告
- 漏えいした人数：10人以下が80%以上、1%程度の大規模な漏えい事案は増加
- 原因：人的ミスによる漏えいが80%以上、不正アクセスはわずか2%
- 事例：2014年7月教育関係事業会社委託先業者が顧客情報持ち出し販売（約2.895万件）
個人情報保護法(6月30万)で起訴ではなく、不正競争防止法(5年500万)で起訴！

1位「インターネットバンキングやクレジットカード情報の不正利用」

- ウイルス感染：乗っ取り、口座情報の搾取
- フィッシング詐欺：三菱東京UFJ銀行を装った偽メールで、偽サイトに誘導

2位「内部不正による情報漏えい」

- 動機：不満、機会：誰の操作か特定不能、正当化：情報価値の軽視
- 2014年7月ベネッセによる個人情報流出（3504万件）：委託先業者の社員の犯行、顧客補償費約200億円
- 東芝の研究データ韓国SKハイニックスに流出：業務提携サンディスク社員の犯行、損害賠償約330億円

3位「標的型攻撃による諜報活動」

- 攻撃手口
1.計画立案 → 2.攻撃準備(標的組織の調査) → 3.初期潜入(ウイルス感染) → 4.基盤構築(感染拡大) → 5.内部侵入・調査(文書の検索) → 6.目的遂行(外部へのデータ送信) → 7.再侵入

4位「ウェブサービスへの不正ログイン」

- パスワード推測：SNS等公開情報から
- ウイルス感染：ID・パスワードの搾取
- パスワードリスト攻撃：パスワード使い回しの脅威

5位「ウェブサービスからの顧客情報の窃取」

- ウェブアプリケーション及びソフトウェアの脆弱性を悪用
- リモートによる運用管理の悪用
- ショッピングサイト「クルチャーニ」でクレジットカード情報流出（22544件）
：SQLインジェクションの脆弱性を悪用
- 三菱UFJニコスで顧客情報流出（894人分）：OpenSSLの脆弱性を悪用

6位「ハッカー集団によるサイバーテロ」

- ウイルス感染：外部から遠隔操作
- ソフトウェアの脆弱性を悪用：ウェブアプリケーション等
- パソコンやサーバを踏み台に悪用

7位「ウェブサイトの改ざん」

- ウェブアプリケーション及びソフトウェアの脆弱性を悪用
- リモートによる運用管理の悪用

8位「インターネット基盤技術を悪用した攻撃」

- なりすまし：登録事業者をだましたり、システムの脆弱性を悪用
- DDoS攻撃(リフレクター攻撃)：ウイルス感染させたパソコン(ボット)による攻撃

9位「脆弱性公表に伴う攻撃」

- 脆弱性対策情報の公表：攻撃者の方が脆弱性を解析
- 脆弱性の放置：気がつかない、対策を実施しない

10位「悪意あるスマートフォンアプリ」

- 偽物のアプリを公開し誘導
- 利用者の心理につけ込む
- 後から悪意のあるアプリへ豹変
- 別のアプリを勝手にインストール

Source → <https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2015.html>

- 2014年度
- 2013年度
- 2012年度